

都立庭園における庭園ガイドツアーに参加した来園者の意識からみた有効性に関する研究

Study on the effectiveness judging from the consciousness of the visitor who participated in the tour of the garden guide in the metropolitan garden

菊池 正芳*

Masayoshi KIKUCHI

Abstract: There are 9 metropolitan gardens in Tokyo. A metropolitan garden is the so-called garden of cultural properties where all cultural assets were designated by Organization of the Country and Tokyo Metropolitan Government. A metropolitan garden guide volunteer is the organization which was established as the mechanism that a Tokyoite participates in management practice in the garden which is Tokyoite valuable asset directly. It's the established organization a Tokyoite guides a visit person as a volunteer, and for the purpose of handing charm in a garden and the historical value down to a Tokyoite widely. This research studies what kind of effect a metropolitan garden guide volunteer exerted on a garden. I found out that the effective role is played to get cooperation with Tokyoite's understanding to a metropolitan garden.

Keywords: metropolitan gardens, gardens of cultural properties, garden guide volunteer

キーワード：都立庭園，文化財庭園，庭園ガイドボランティア，

1. はじめに

現在、東京都では 81 か所の都市公園を都立公園として開園・管理しているが、その中で歴史的・文化的に価値ある都立公園を都立庭園として管理している。具体的には、徳川将軍家の庭であった浜離宮恩賜庭園、水戸家の上屋敷の庭であった小石川後楽園、柳沢吉保が 7 年の歳月をかけて整備したといわれる六義園、江戸幕府老中久保忠朝の上屋敷の庭園であった旧芝離宮恩賜庭園などの江戸時代に作庭された大名庭園とも呼ばれる池泉回遊式の庭園、そして、江戸時代の大名庭園を明治時代に財閥が買取り、社員の慰安、招宴場として利用されていた清澄庭園、三菱の創始者である岩崎家の本邸であった旧岩崎邸庭園、古河財閥の本邸であった旧古河庭園、江戸時代の民営の花園であった向島百花園、三菱家の別荘地であった殿ヶ谷戸庭園である。これら 9 か所の都立庭園は全て、国や東京都によって文化財指定された文化財庭園となっている。

文化財の管理に関しては、2001 年に文化審議会文化財分科会企画調査会により取りまとめられた「文化財の保存・活用の新たな展開」の中で、国民一人一人が連携協力して文化財の保存活用に積極的に参加するよう求められているなど、文化財行政への市民参加の広がりを推進する姿勢が見られ始めていた¹⁾。

都立庭園の管理に関しては、1997 年から公益財団法人東京都公園協会（以下公園協会）が、草刈り、清掃、料金徴収事務等の日常管理業務を受託し都立庭園の管理を行っていたが、2006 年からは指定管理者として管理・運営を行うこととなった²⁾。管理の主体が官から民へ移行する中で、公園協会では都立庭園の持つ文化財庭園としての歴史的・文化的価値や、文化財庭園としての魅力を広く都民に伝え、理解してもらうことを目的として都立庭園ガイドボランティアを誕生させた。そして、都民の貴重な財産である文化財庭園は都民との協働により管理運営していくことが望ましいとの考えから、都立庭園ガイドボランティアは、庭園の基

礎的教育を受けた都民が、ボランティアとしてガイドを行う仕組みとし、1999 年に浜離宮恩賜庭園と小石川後楽園で最初の活動が始まった。その後、順次都立庭園に導入されていき、2009 年に殿ヶ谷戸庭園に導入され、全ての都立庭園に都立庭園ガイドボランティアが導入されることになった。各庭園に導入された都立庭園ガイドボランティアは、各庭園の特徴に応じた鑑賞方法、歴史的背景等の案内・説明及び都立庭園を貴重な文化財として次世代へ継承していくための愛護の精神を育む活動を、自主運営のボランティア組織として活動している³⁾。

2. 研究の目的

日本庭園の来園者に対する情報提供に関する研究としては、下村、水野、加藤らが、京都の定期観光バスの乗客に対して、京都の公開庭園における観光客への情報提供の実態と今後のあり方についての実態調査を行っている⁴⁾。同調査のアンケート調査により得られた 606 部のデータを解析した結果によると、「庭園を理解する上で必要だと思われる「庭園の持つ意味」や「歴史的背景」などについて難解であると感じている人は少なくないという一方で、観光客は管理者側に対して多くの情報提供を求めているという現状も明らかとなった。また、アンケート調査の結果から希望する人の最も多かった無料パンフレット（70%が希望、複数回答）はほとんどの庭園で配布されているが提供して欲しい情報内容として回答の多かった「鑑賞のポイント」や「庭園の持つ意味」、「歴史的背景」については、無料・有料パンフレットで解説している庭園は、全体の半数にも満たなかった。解説員については、アンケート回答者の 3 割が提供して欲しい情報手段としてあげたが、実際に採用している庭園は 6 か所（14%）と少なく、今後より多くの庭園が解説員を採用することを望まれる。」であった。

これらのことは、京都の公開庭園に関する調査結果ではあるが、観光客は庭園を鑑賞するために「庭園の持つ意味」や「歴史的経

* 東京都建設局西部公園緑地事務所

緯」の知識は必要であるとは感じていながら、必要とする情報が得られていないということが明らかにされている。また、鈴木が行った日本庭園に対する認識調査⁵⁾によると、アンケートに回答した日本人 89 人のうち、約 8 割が日本庭園に興味を持ち、また約 7 割が日本庭園を鑑賞した経験があると答えている。それにもかかわらず、日本庭園を十分理解していると回答したのは 1 人、またある程度理解していると回答した者も 3 割程度に過ぎなかった。この結果からも、日本庭園に対する興味はあるものの理解するのは難しいと感じていることが同調査結果から明らかにされている。

これらの調査結果から、多くの日本人が日本庭園には興味を持ってはいるが、日本庭園への来園者に対して十分な情報が与えられていない状況にあったことが明らかにされている。都立庭園において開始された都立庭園ガイドボランティアは、文化財庭園の鑑賞ポイントや歴史的背景等の知識を教育されたボランティアが、無料で庭園ガイドを行うものであり、都立庭園ガイドボランティアが行う庭園ガイドは来園者に対してどのような効果をもたらしているのかを調査することは、日本庭園・文化財庭園における来園者に対する情報提供のあり方を考える上で価値あることである。

そこで本研究では、定期的実施している庭園ガイドについて、ガイドツアーへの参加者に対してアンケート調査を行い、文化財庭園の内容や魅力が参加者に伝わっているのか、参加者の求める要求を満足させているのか等について実態を把握し、都立庭園ガイドボランティアの行う庭園ガイドの有効性を明らかにすることを目的としている。

なお、他の地域・地方に存在する文化的価値を有する、例えば城郭や寺社、庭園等においてそれらをガイドすることは、1990 年代から各地域の観光協会が観光ボランティアとして実施しているが⁶⁾、何れも、その固有の特徴を説明するに止まっている。東京都が有している 9 つの都立（文化財）庭園は、それぞれの生い立ちを簡単に説明したように、それぞれ固有の特徴を持っているため、これらを総合的にとらえて調査・分析することにより、普遍性を担保することで広く活用が出来る情報になると考え今回都立庭園を研究対象とした。

3. 研究方法

都立庭園では、基本的に土日祝の午前と午後の 1 日 2 回庭園ガイドを行っているが、都立庭園の規模やボランティアの都合等により、土日の午後だけ実施している都立庭園や、毎日実施している都立庭園などの違いがある。また、都立庭園は、サクラ、アヤマメ、ツツジ、バラ等の花のシーズンになると各種イベントが行われ、庭園に興味がある人だけではなく、イベント目的で来園する人も多くなる。そこで、アンケートを実施するに当たり、花の咲く時期は、花の観賞といった特別の目的の来園者が多くなり、アンケート結果に偏りが生じる可能性があるため、その時期を避けるとともに盛夏の来園者の減少する時期前で、緑が濃くなり庭園としての観賞に適した時期を選定することとした。また、都立庭園内の園路は狭く、イベント開催期間は混雑のため庭園ガイドが出来ない場合があるため、アンケートは各種イベントの行われな時期に実施することとし、1 週間の 1 回だけではアンケート調査数が少なくなる可能性があるため、2 週にわたって実施することとした。その結果、アンケートの実施日は 7 月の第 1 週と第 2 週の土日に行うこととした。

アンケートの実施方法は、庭園ガイドのツアーに参加した人にガイド終了後、直接手渡しでアンケートを配布し帰りに庭園の窓口（出入口）に提出してもらう方法とした。アンケートに記述するか否かは、あくまでも任意という説明をした後、ご協力をお願い

表-1 庭園ガイドのツアー参加者へのアンケート調査項目

1. ガイドツアーに満足しましたか ①満足した②ほぼ満足した③満足できなかった④どちらともいえない⑤その他
2. ガイドツアーに満足できた理由、できなかった理由 【満足した理由】①話が分かりやすかった②短時間で説明を開けた③庭園の歴史が良く理解できた④庭園の特徴を知ることができた⑤庭園の裏話を聞くことが出来た⑥他 【満足できなかった理由】①話が分かりづらかった②時間が長すぎた③説明内容が専門的すぎた④ガイドの主観的な意見が強く感じられた⑤全て知っている内容だった⑥他
3. 今回ガイドツアーに参加した理由 ①庭園のことを深く知りたかった②どんな説明があるか興味があった③時間に余裕があったので④なんとなく⑤自分もガイドになりたいので⑥新たな知識を知りたかった⑦他
4. ガイドツアーでどんなことを聞きたいと思いましたか ①石組などの作庭の考え方など②庭園・建物の成り立ちなどの歴史について③庭園の花や植物について④庭園・建物に係るエピソードなど⑤庭園全般について⑥他
5. この庭園へ来たのは何回目ですか ①初めて②数回③数十回（たびたび来ている）
6. 次回の庭園に来た時に再びガイドツアーに参加しますか ①説明を聞いたのでもう参加しない②また参加したい③イベントなどあれば参加したい
7. 庭園にガイドツアーは必要であると思いますか ①必要②いらない③どちらともいえない
8. その他自由意見
9. 年齢、お住まい、性別

した。今回対象とした都立庭園は、旧岩崎邸庭園、旧芝離宮恩賜庭園、旧古河庭園、清澄庭園、小石川後樂園、殿ヶ谷戸庭園、向島百花園、六義園の 8 都立庭園とした（各表での庭園名は、旧岩、旧芝、旧古、清澄、後樂園、殿ヶ谷戸、百花園、六義園とした）。なお、浜離宮恩賜庭園については、管理主体の東京都が公的利用を行うことが多く、アンケート調査を実施する日程調整が出来なかったために、今回の対象から外した。アンケートの調査項目は庭園ガイドに対する満足度を中心に設定した（表-1）。

4. 結果と考察

8 庭園でアンケートを合計 882 部配布し、回収できたのは 308 部で回収率は約 35%であった。なお、アンケート調査による結果の制度を高めていくためにも、回収率を高めていくことは今後の検討課題である。今回は、庭園による偏りと回答者が少なかったことから統計処理によるデータ解析は行わなかった。

(1) 属性

アンケートを回答した参加者は 308 名で女性は 193 名で 63%、男性は 115 名で 37%と女性が多く、年齢的には 60 代が 102 名で 33%と一番多く、次に 50 代が 66 名で 21%、40 代が 51 名で 17%の順となっていた（表-2）。このことから、庭園ガイドのツアーに参加する人の半数以上が 50 代以上の人であり、その中でも女性の多いことが分かった。庭園別では、旧岩崎邸庭園は 101 名で全体の 33%を占めており、次いで六義園 55 名、清澄庭園 42 名であり、残りの庭園は 20 名から 10 名程度であった。アンケートの実施方法で述べた通り、庭園ガイドの有効性を探るために、庭園における興行的な企画、植物の開花など参加者の意識が振れる要因を排除するために様々な企画、開花などのイベントが無い時期にアンケートを実施したが、旧岩崎邸庭園だけが毎週土曜日ごとにコンサートが開かれており、これがガイドツアー参加者数に影

表一 2 ガイドツアー参加者の性別と年齢

	総数		男 (115人) 女 (193人)													
			20代		30代		40代		50代		60代		70代上			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
旧岩	31	70	3	8	3	6	6	13	10	18	7	19	2	6		
旧芝	9	15	0	1	1	0	1	4	2	3	3	3	2	4		
旧古	5	13	0	1	0	2	2	0	0	1	2	6	1	3		
清澄	11	31	0	1	0	3	1	10	4	7	4	6	2	4		
後楽園	17	9	0	2	1	1	1	0	1	0	11	5	3	1		
殿ヶ谷戸	9	18	0	1	1	1	3	1	1	1	4	10	0	4		
百花園	5	10	0	0	0	1	1	2	2	4	1	2	1	1		
六義園	28	27	1	2	0	2	2	4	9	3	11	8	5	8		
男女	115	193	4	16	6	16	17	34	29	37	43	59	16	31		
男女(%)	37	63	3	8	5	8	15	16	25	19	37	31	14	16		
合計	308		20		22		51		66		102		47			
対総数	100%		7%		7%		17%		21%		33%		15%			

表一 3 ガイドツアー参加者の居住地

	総数		東京都内		東京近県		その他	
			男	女	男	女	男	女
	旧岩	101	11	23	9	35	11	12
旧芝	24	4	12	4	3	1	0	
旧古	18	2	8	1	3	2	2	
清澄	42	5	18	4	10	2	3	
後楽園	26	8	3	4	3	5	3	
殿ヶ谷戸	27	6	8	3	10	0	0	
百花園	15	4	6	1	3	0	1	
六義園	55	9	11	11	11	8	5	
男女合計	308	49	89	37	78	29	26	
合計		138		115		55		
対総数		45%		37%		18%		

響し旧岩崎邸庭園の回答者数が多かった要因と考えられる。

庭園ごとの男女別の割合は、回答者の約6割は女性で男性は約4割と差が大きかった。しかし、その中で六義園と小石川後楽園だけが男性の割合が高かった。特に小石川後楽園は男性17名で女性9名と他の庭園の男女比と逆転した現象を示した。

居住地については、東京都内在住者が45%で半数近くであり、関東近県（神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県、群馬県、栃木県）が37%で、また、その他、福岡県、広島県、石川県、新潟県といった他県からの来園者が18%であった（表一3）。

(2) ガイドツアーに対する満足度

(i) 満足度について

庭園ガイドのツアーに対する満足度は、「満足した」が267名で87%、「ほぼ満足した」が41名で13%、不満足の人はいなかった。ただし、「ほぼ満足した」と回答した人の中で4名が、声が小さくて聞き取れなかったという理由をあげていた。今回、表一4は「満足できなかった」「どちらともいえない」の回答が無かったため、「満足した」「ほぼ満足した」の項目で庭園別に回答内容を示した。

(ii) 満足した理由

満足した理由については、「①話が分かりやすかった」が81%と最も多く、次に「④庭園の特徴を知ることが出来た」が51%、「③庭園の歴史が良く理解できた」が44%となっている（表一5）。この表一5は、表中の①～⑤までのアンケート項目に対して回答を複数選択できる複数回答としている。以下同様に複数回答としている。このアンケートでは、81%の回答者が「①話が分かりやすかった」と回答し、自由意見欄にガイドの個人名で感謝の言葉が述べられている例などからも、都立庭園ガイドボランティアは養成講座やその後の研修などで話し方も訓練されており、その成

表一 4 ガイドツアー参加者の満足度

	総数		満足した		ほぼ満足した		男女計	
			男	女	男	女	男	女
	旧岩	101	26	60	5	10	31	70
旧芝	24	8	12	1	3	9	15	
旧古	18	4	11	1	2	5	13	
清澄	42	10	29	1	2	11	31	
後楽園	26	16	8	1	1	17	9	
殿ヶ谷戸	27	9	14	0	4	9	18	
百花園	15	3	10	2	0	5	10	
六義園	55	24	23	4	4	28	27	
男女合計	308	100	167	15	26	115	193	
合計		267		41		308		
対総数		87%		13%		100%		

表一 5 ガイドツアーの参加者が満足した理由

	男 (115人) 女 (193人)									
	①		②		③		④		⑤	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
旧岩	23	60	7	20	11	26	10	25	5	19
旧芝	8	9	0	3	4	7	5	9	2	3
旧古	3	10	0	0	2	4	3	9	3	3
清澄	9	28	0	5	3	15	5	18	1	10
後楽園	13	6	4	1	9	6	13	5	7	2
殿ヶ谷戸	6	16	1	1	6	7	7	12	1	6
百花園	3	9	0	2	3	4	1	8	1	1
六義園	22	24	5	7	12	17	13	15	10	9
男女別計	87	162	17	39	50	86	57	101	30	53
男女別(%)	76	84	15	20	43	45	50	52	26	27
合計	249		56		136		158		83	
対総数(%)	81%		18%		44%		51%		27%	

果が認められたといえる。そして、満足した理由の2番、3番目が④庭園の特徴や③歴史について理解できたといった回答であり、都立庭園の歴史的、文化的価値を広く都民に伝えるという、都立庭園ガイドボランティアの設置目的を実現していると考えられる。都立庭園ガイドボランティアは、庭園の基礎教育を受けた上で「都立庭園ガイドライセンス資格試験」に合格した者だけが、庭園ガイドを行うことが出来る仕組みになっており⁷⁾、一定の知識水準を持ったボランティアがガイドを行っている。庭園の特徴・歴史について高い満足度を得た結果は、都立庭園ガイドボランティアの質が参加者の満足度に影響しているものと考えられる。

男女別で見ると、女性は「①話が分かりやすかった」の回答が84%と、男性の76%より高い値を示している。男女ともに、満足した理由の順位は同じであるが、「④庭園の特徴を知ることが出来た」の回答については男性50%、女性52%、また、「③庭園の歴史が良く理解できた」の回答については、男性43%、女性45%と男女で大きな差が無いところからも、「①話が分かりやすかった」といった、話の内容ではなく、話の仕方、聞きやすさ、分かり易さが満足度を高めるうえで重要であると思われる。今回のアンケートでは特にその傾向は女性の方が高かった。なお、⑤庭園の裏話は27%、②短時間の説明18%であり、これらの内容に期待している庭園ガイドツアーの参加者は少ない傾向にあった。

(3) ガイドツアーに参加した理由

庭園ガイドのツアーに参加した理由については、複数回答であったが「①庭園のことを深く知りたかった」との回答が47%、次いで、「②どのような説明があるか興味があった」が30%、「③時間に余裕があった」が26%となっている（表一6）。参加した理

表一六 ガイドツアーに参加した理由

	男 (115人) 女 (193人)											
	①		②		③		④		⑤		⑥	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
旧岩	10	36	9	19	10	12	3	13	0	1	2	11
旧芝	6	6	0	1	2	8	1	2	0	0	0	2
旧古	2	4	0	6	3	2	1	0	0	0	1	2
清澄	4	17	6	11	2	8	0	3	0	2	1	6
後楽園	10	3	7	3	5	2	1	1	0	0	3	2
殿ヶ谷戸	3	5	4	4	5	8	0	1	0	0	0	2
百花園	5	6	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0
六義園	16	13	8	11	3	9	2	3	0	1	3	5
男女計	56	90	34	59	30	50	8	22	0	4	7	30
男女別%	49	47	30	31	26	26	7	11	0	2	6	16
合計	146		93		80		30		4		37	
総数%	47%		30%		26%		10%		1%		12%	

表一七 ガイドツアーに参加してどんなことを聞きたいか

	男 (115人) 女 (193人)											
	①		②		③		④		⑤			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
旧岩	2	5	21	34	2	1	10	43	3	13		
旧芝	3	1	6	6	1	5	3	5	2	5		
旧古	1	2	2	5	1	3	2	4	4	2		
清澄	3	9	4	19	2	12	5	18	4	8		
後楽園	4	1	11	4	4	2	12	1	6	3		
殿ヶ谷戸	2	1	5	11	2	6	2	7	4	4		
百花園	1	0	1	3	3	7	1	3	1	2		
六義園	4	4	17	19	7	15	14	14	5	9		
男女合計	20	23	67	101	22	51	49	95	29	46		
男女別%	17	12	58	52	19	26	43	49	25	24		
総合計	43		168		73		144		75			
総数(%)	14%		55%		24%		47%		24%			

由で回答数が多かった「①庭園のことを深く知りたかった」については、男性49%、女性47%と共にほぼ同じ割合を示していた。他の回答についても男性、女性共にほぼ同じ割合であったが、全体で10%であった「④なんとなく」では、男性が7%で女性は11%であり、全体で12%であった「⑥新たな知識を知りたかった」では、男性が6%、女性が16%と、この2項目について女性が高い値を示した。

アンケートの結果からは、回答者の半数近くは男女ともに、庭園のことを深く知りたいといった明確な目的を持って参加していることが明らかとなり、庭園に対する興味が高く、庭園を理解するためにガイドの説明を聞きたいといった要望があることが分かった。

このことは、「観光客は日本庭園に対しての興味はあるが、庭園を理解する上で必要だと思われる「庭園の持つ意味」や「歴史的背景」を理解することは難解であると感じており、「鑑賞のポイント」や「庭園の持つ意味」、「歴史的背景」が求められる情報である。」という、下村、水野、加藤らが、京都の公開庭園における観光客への情報提供に関する実態調査⁴⁾で明らかにされた結果に通じるものがある。

また、どのような説明があるかといった、説明の内容についても高い関心を持っていることが明らかになったが、このことから庭園に対する関心が高いことが分かる。

(4) ガイドツアーに参加してどんなことを聞きたいか

庭園ガイドのツアーに参加して何を聞きたいかについては、「②庭園・建物の成り立ちなどの歴史について」が55%、次に「④庭園・建物に係るエピソードなど」が47%であった。これらの回答については、男女別で見ても大きな差はなく同じような割合であった(表一七)。その他「③庭園の花や植物について」及び「⑤庭園全般について」は共に24%であったが、「③庭園の花や植物に

表一八 庭園への来園回数

	総数	①	②	③
旧岩	101	88	12	1
旧芝	24	18	6	0
旧古	18	12	6	0
清澄	42	30	12	0
後楽園	26	20	6	0
殿ヶ谷戸	27	22	5	0
百花園	15	9	3	3
六義園	55	34	19	2
男女合計	308	233	69	6
対総数%		76%	22%	2%

ついて」では男性19%に対し女性26%と差が見られた。なお、「①石組などの作庭の考え方など」を聞きたいと回答した人は14%と少なく、男性17%、女性12%と男性がやや多かった。

アンケートの結果から、回答者の40%以上は、庭園の石組などの作庭の考え方、意匠などといった庭園の技術的な考え方といったことよりも、庭園や建物がどのような時代背景や経緯の中で成立したのかといった歴史や、その裏側にあるエピソードといった物語的な歴史に興味があるということが明らかになった。

ただし、回答者の24%が庭園の植物や花についての説明を受けたいと回答しており、都立庭園は文化財庭園としての存在だけではなく、都市における緑地としての役割も担っていることが分かる。このことから、都立庭園を管理運営していく上で、文化財庭園としての歴史性についての意義と共に、庭園の緑地・公園としての意義も同時に考慮していくことが必要であることが分かる。

(5) 庭園への来園回数

庭園への来園回数については、「①初めて」との回答が76%、「②数回」が22%との回答であった(表一八)。このことから、庭園ガイドのツアー参加者の多くは、初めて来園した人が多いことが分かった。

(6) 次回来園時もガイドツアーに参加するか、及びその必要性

次回来園した時にも庭園ガイドのツアーに参加するかについての問いに対して、「②また参加したい」が68%で、「③イベントなどがあれば参加したい」が22%であり、「①説明を聞いたのでもう参加しない」は10%であった(表一八)。

今回の結果からは、「イベントなどがあればまた参加したい」も含めるとまた参加したいという意見が90%となり、庭園ガイドのツアーに参加した人の大部分がまた参加したいという回答であることが分かった。また、自由意見欄に書かれた意見は少数であったが、それらの大部分は、「楽しかった」「非常に有意義な時間を過ごすことが出来た」「良く分かった」「また別の季節にも来ます」といったものであり、庭園ガイドのツアーに参加して、庭園の素晴らしさが理解できた、といった感想であった。

これらのことから、回答者の満足度は大変高いものであることが分かった。また、回答者が目的をもってガイドツアーに参加し

表一九 次回の来園時にもガイドツアーに参加するか

	総数	①	②	③
旧岩	101	8	73	20
旧芝	24	1	17	6
旧古	18	3	10	5
清澄	42	2	30	10
後楽園	26	2	20	4
殿ヶ谷戸	27	3	18	6
百花園	15	2	8	5
六義園	55	10	32	13
男女合計	308	31	208	69
対総数%		10%	68%	22%

た結果、都立庭園におけるガイドツアーは、その目的を十分に満足させる内容であったことを意味するものであると推測される。

庭園ガイドの必要性については、「①必要である」が98%で、「②必要ない」は2名で、「③どちらともいえない」が9名であった。このことから、回答者はほぼ全員が庭園ガイドを必要であると感じており、回答者の満足度の高さを示すものであると考えられる。

5. まとめ

都立庭園の持つ文化財庭園としての歴史的・文化財的価値や文化財庭園の持つ魅力を広く伝え、理解してもらうことを目的として設置された都立庭園ガイドボランティアが、設置当初の目標を果たし来園者に対して有効に機能しているのか、また、どのような効果を与えているのかを検証することを目的として、今回、定期的実施している庭園ガイドのツアー参加者に対してアンケート調査を行い、文化財庭園の内容や魅力が参加者に伝わっているのか、参加者の求める要求を満足させているのか等について調査を行った。その結果以下のことが明らかになった。

まず、アンケート結果では、回答者の55%が東京都内以外の居住地であり、東京都内在住者の45%を上回っていた。庭園への来訪者は何かしらの興味を持って庭園を訪れていると思われるが、庭園ガイドのツアーに参加する来園者は、庭園に対して最も興味を持っている集団と考えられる。庭園に対する興味を持っているということで来園者を代表していると考え、ガイドツアー参加者の任意回答によるアンケート調査の結果から、都立庭園は全国的な規模で来園者が訪れていると考えることが出来る。

次に、庭園ガイドのツアーに参加した人の満足度は高く、ほぼ満足の人も含めると回答者のほぼ全員がガイドツアーに参加して満足であったと回答していた。

満足した理由としては、説明が分かりやすかったからと回答した人が81%と最も多かった。鈴木が行った日本庭園に対する認識調査⁶⁾による結果から、日本人は日本庭園に対する興味はあるものの理解するのは難しいと感じていることが明らかにされているが、今回の満足した理由として「説明が分かりやすかった」という回答をしている前提として、回答者の多くは日本庭園を理解することは難しい、といった考え方が根拠であったのではないと思われる。そのため、ガイドツアーに参加して、庭園の歴史的背景や成り立ち、鑑賞ポイント等について丁寧に解説を受けることにより、庭園を身近な存在として感じていることが推察される。

また、庭園ガイドのツアーに参加する理由として、回答者の47%が「庭園のことを深く知りたい」と回答するなど、庭園に対する興味は高く、知識欲も高いことがアンケート調査結果から明らかになった。そして、庭園ガイドのツアーに参加して聞きたいことは、庭園・建物が造られた時代的背景やそのエピソードといった話であり、作庭の意匠や石組についての説明といった専門的な知識よりも、庭園・建物が今までたどってきた歴史や、様々な物語などを聞きたいと希望していることが分かった。

文化財庭園の歴史的・文化財的価値や文化財庭園の持つ魅力を広く伝え、理解してもらうことを目的として都立庭園ガイドボランティアが設立されたのであるが、今回のアンケート調査の結果から明らかになったように、ガイドツアーに参加する人たちの考える文化財庭園の魅力や知りたいことに関して、文化財庭園の管理者は更に関心を持ち内容を分析することが必要である。そして、文化財庭園の管理者が考える文化財庭園の魅力や価値と、来園者が考える文化財庭園の魅力や価値との間に意識の差が生じることの無いようにする必要がある。そのことが、文化財庭園に興味を持ってもらい、魅力を知ってもらい、文化財庭園を将来の世代に

引き継いでいくための理解と協力を得るための鍵となってくると考えられる。

そして、庭園ガイドのツアーに参加する人たちの欲求を満足させている点はどのような内容であるのか、更に詳細な調査・分析をすることにより、今後多くの来園者が文化財庭園に対する興味と関心をより高めることが出来る庭園ガイドとすることができると考えられる。

参加者の満足度を高めるのは、分かり易い説明であるということが明らかになったが、分かり易い説明が出来るか否かについては、ガイドボランティアの技能が大きく左右する問題である。そのため、都立庭園ガイドボランティアの技能を高めていくことが参加者の満足度を高めるうえで重要となってくると考えられる。

そして、回答者の約8割の人が、庭園ガイドのツアーに「また参加したい」と回答しているが、このことは、ガイドブックや説明看板からの情報ではなく、ガイドボランティアから直接説明を受けたいということであり、人と人との交流が求められているということでも考えられる。

また、庭園ガイドのツアーに参加してどんなことを聞きたいかの質問に対して、回答者の24%が「庭園の花や植物について」と回答していたが、このことは、都立庭園が都市公園としての役割と文化財庭園としての役割の2つの役割を持つことを端的に示す結果となった。小野により庭園と都市との相互関係に基づく歴史的庭園の歴史性に関する考察⁸⁾が研究されているが、都立庭園は文化財庭園としての歴史性と共に庭園と都市空間相互の関係についても考慮していく必要がある。

今回のアンケート結果からは、回答者のほぼ全員がガイドツアーに満足しており、満足した理由としても、説明が分かりやすかったに続いて、庭園の特徴を知ることが出来たが51%、庭園の歴史が良く理解できたが44%となっているなど、都立庭園ガイドボランティアの設立の目的をほぼ達成していると考えられる。また、何らかの機会があれば次回も参加したいとの回答が90%あるなど、今回の回答者から得られたデータでは都立庭園ガイドボランティアは有効な仕組みとして機能していると考えられる。

今回、都立庭園における庭園ガイドボランティアについて研究を進めてきたが、日本を代表する庭園と言われている兼六園、岡山後楽園、水戸偕楽園における庭園ガイドを調査したところ、それぞれボランティアによる庭園ガイドは存在するものの、それらは地域の観光協会により運営されているガイドである場合が多いことが分かった。兼六園の場合は、兼六園観光協会が主催する有料の庭園ガイドと、金沢ボランティア大学を卒業した方々が金沢市観光協会主催のボランティアガイドとして兼六園と金沢公園のガイドを行っていた。岡山後楽園の場合は、岡山市観光協会が主催する観光ボランティアが、後楽園と岡山城を主要コースの一つとして行うガイドと共に、岡山県の後楽園事務所が後楽園専任ボランティア「後楽塾」を開催し、半年間の研修の後2年間の任期でボランティアガイドを行っていた。また、後楽園事務所には登録制ボランティア「キラリ応援隊」があり、後楽塾を終えた人が庭園のガイドや清掃等の業務に登録して活動していた。偕楽園では、「歴史アドバイザー」という市民観光ボランティアが、水戸観光協会主催による観光ガイドコースの一つとして偕楽園のガイドを行っていた。

このように地域の歴史、文化に基づく観光の目的であることが多く、一つの庭園に専属してガイドを行うといったケースは少なかった。

これらのことから、都立庭園ガイドボランティアは文化財庭園の歴史的・文化財的価値や文化財庭園の持つ魅力を広く伝え、理解してもらうといった明確な目的を持ったガイドボランティア

であり、庭園の来園者に対する情報提供として有効な組織であることが明らかになった。

6. 今後の課題

今回のアンケート結果からは、庭園ガイドのツアー参加者の高い満足度及び回答者のほぼ全員がまた参加したいと回答していることなどから、都立庭園ガイドボランティアの活動が有効であるとの結果になったが、回収率が35%と低い結果であったことなどいくつかの課題を残す結果ともなっている。そこで、今後、都立庭園ガイドボランティアの仕組みを継続していく上での課題を以下に示す。

(1) 説明内容にボランティアの主観が入る可能性

アンケート調査の中で、庭園ガイドには満足しているが、説明の内容に「ガイドの主観的な意見が強く感じられた」という意見が2名あった。数的には少ないが、庭園ガイドでは、文化財の正確な説明が必要であり、未確認な情報や定説ではない説明は避けなければならない。ガイドツアー参加者の多くは、都立庭園ガイドボランティアの説明を当然正確な情報として理解しており、その結果としてアンケート調査の結果にもあったような満足度を示している。都立庭園ガイドボランティアは都立庭園という東京都の管理する庭園の中で行っている活動であるため、正確な情報を提供することが大前提である。都立庭園ガイドボランティアは自主的活動として庭園に係る研修会を独自に行っているが、説明内容がガイドボランティアによって異なることの無いよう、説明内容のチェックをどのように実行していくかが課題である。

(2) 多言語対応

既に六義園、旧岩崎邸庭園などの庭園では英語ガイドを自主的にしているが、都立庭園には9庭園合計で年間約240万人の来園者があり⁹⁾、東京都における日本文化発信の有効な拠点となっている。今後2020年開催の東京オリンピックに向けて外国人観光客の増加が見込まれる。江戸・東京の文化を海外に発信していくためにも多言語のガイドボランティアの養成が必要である。このことについては、庭園管理者のみではなく組織的な対応が必要となってくる。

(3) 緑地としての役割や性別や年代に応じた説明等多様な説明

向島百花園、殿ヶ谷戸庭園、清澄庭園といった花や植物が多くある庭園では庭園の歴史とともに、庭園内の花や植物に対して興味のある参加者が多い。回答者の24%が「庭園の花や植物について」と回答していたように、都立庭園は都市公園としての役割も担っており、文化財庭園としてのガイドと共にその庭園の特徴に応じた説明を更に工夫していく必要がある。現在もガイドボランティアによって自分の得意分野である植物中心とか歴史中心といった特徴を持った説明を行っているが、組織としても説明内容の検討が必要である。また、参加者は40～60代が多いが、10代、20代の来園者を増やしていくために、若者が都立庭園に来園したくなるガイドの開発も必要である。

(4) 庭園ガイドの更なる組織化

現在庭園ガイドは原則土日祝の午前と午後を実施されているが、平日の来園者への対応、団体客への対応など活動の機会は増えることが予想される。今回のアンケート結果からも、ガイドツアー参加者の高い満足度から見ても、土日に限らず平日の庭園ガイドのツアー希望が望まれることが予想される。現在、都立庭園ガイドボランティアは、自主運営組織として活動しているが、活動範囲が広がってくる場合には、ボランティア育成の問題等庭園管理者との更なる連携・組織的運営等についても検討していく必要がある。

(5) 庭園ガイドの更なる調査分析

今回、庭園ガイドのツアー参加者に任意にアンケートを行い、その結果を整理・分析したところであるが、来園者の属性、文化財庭園のどこに興味があるのか、今後文化財庭園の保全に理解と協力を得るためには何が必要なのかといった回答を模索していくためには、今後より多くのデータを回収する工夫が必要であり、更なる調査・分析が必要である。調査・分析を進めるに当たっては、アンケート調査の回収率の向上は重要な課題である。また、今回は単純集計であったため、今後さらにアンケート方法や回収方法及び分析に改善を加えていく必要があると考えられる。

(6) ガイドボランティアの運営に関する課題

今回、都立庭園ガイドボランティアの機能を明確にしたが、今後、都立庭園ガイドボランティアの持続的運営を検討する上で、都立庭園を管理している管理主体が抱えている問題意識・課題を鮮明にして、適時性や有用性について検討する必要があると考えている。

謝辞：なお、本稿の調査に当たり、公益財団法人東京都公園協会ならびに各庭園における都立庭園ガイドボランティアの方々には多大なるご協力をいただきました。ここに改めて感謝の意を表します。

引用文献

- 1) 加藤博、下村孝(2009)：日本庭園に関するシンポジウム受講者に対する意識調査による文化財庭園の管理のあり方：ランドスケープ研究72(5)、885-888
- 2) 菊池正芳(2013)：都立庭園ガイドボランティアについて(1) 成立の経過：都市公園 No201：公益財団法人東京都公園協会：81-83
- 3) 都立庭園の管理に関する専門委員会(1999)：都立庭園の管理に関する方策答申：公益財団法人東京都公園協会：PP58
- 4) 下村孝、水野聖子、加藤博(2004)：京都の公開庭園における観光客への情報提供の実態と今後のあり方：ランドスケープ研究67(5)、381-386
- 5) 鈴木誠(1997)：欧米人の日本庭園観：造園学論集 別冊No.2、131-136
- 6) 今井成男(2003)：観光ボランティアガイドの現状と課題：岡山商大社会総合研究所報第24号10月、43-54
- 7) 都立文化財庭園研究会(2014)：江戸大名庭園の魅力：東京農業大学出版：
- 8) 小野良平(2001)：小石川後樂園にみる庭園と都市との相互関係に基づく歴史的庭園の歴史性に関する考察：ランドスケープ研究64(5)、825-830
- 9) 事業報告書(2013)：公益財団法人東京都公園協会